

おうとう

第4号
文責日高洋子



中総体陸上大会

応援ありがとうございました

6月8日(日)五島市中学校総合体育大会陸上競技大会において、本校の生徒が短い練習期間を経て出場しました。当日は天気が不安定で雨が心配されましたが、選手がぬれることなく終わりました。本年度から、クラブチームも参加しましたので、本校の生徒ながら「翁頭中学校」のユニフォームで試合に参加していなかった生徒もいました。しかし、応援は他の学校もクラブチームも関係なく、頑張っている選手を大いに声援を送る姿があり、勝敗だけではない充実した大会になりました。以下は県大会出場となった競技種目です。

- (●は補欠)
- 1年生男子4000mリレー
 - 1年生男子1500m
 - 共通男子200m
 - 共通男子走高跳
 - 共通男子3段跳
 - 1年女子800m
 - 3年女子100m
 - 共通女子走幅跳
 - 共通女子200m



雨は降りませんでしたでしたが、応援は午前中のみと決定していたため、応援生徒の気合いは十分に入っていました

アサーショントレーニング 1年生が体験しました



一本橋の先へ進みたいのに進めない
どうやって相手を説得する？

本校のスクールカウンセラー馬場先生によるアサーティブトレーニングが1年生対象に実施されました。アサーティブとは「自分の気持ちを相手に伝える」ということです。集団生活では、自分が思っていることを相手にうまく伝えられないことで、友達に嫌な思いをさせたり、自分自身がイライラしたり、気持ちに負担を抱えることがあります。一方的に自分の主張だけをするので、相手に「NO」と言わせない雰囲気があれば、その集団には「居たくない」と思えます。誰もが居心地の良い集団で、自分も相手も大事にするためのトレーニングです。この日は一本橋を渡るゲームで自分が渡れるか、相手に譲れるかを実際にやってみました。果たして：

言葉の力

ある日、市役所での会議に出席するために靴を履き替えていると、ある生徒が「お出かけですか？」と声をかけてきました。今から会議に出かけることを伝えると、「行ってらっしゃい」と言ってくれました。何気ないひと言で少し、その生徒にとってはおそらく前回のやりとりだったのだでしょうが、私は少しうれしい気持ちになりました。ふと、子どもたちは家庭でもそのような会話をしているのだろうかと思いました。「いってきます」「いってらっしゃい」「たがいま」「おかえり」など、どこにでもある言葉ですが、かけられると心が温かくなるものです。ぜひ、ご家庭でも地域でも、こうした言葉のやりとりを大切にしたいだけだと思います。

翁っ子の心を見つめる 教育週間について

6月23日(月)から本校の「心を見つめる教育週間」が始まります。この期間が始まったのは、2003年に長崎市内で中学生が幼児を誘拐し、命を奪ってしまった事件があったからです。事件の翌年から、県下全ての小中学校で、命の大切さについて学んでいきます。毎年道徳の授業を公開しているところですが、本年も、自分の心を見つめ、命の尊さ、生きることの素晴らしさを学びます。ぜひ、保護者、地域の皆様に子ども達が真剣に命を学ぶ姿を御覧いただきたいと思っております。なお、業参観日は27日(金)です。

校長室から

「井の中の蛙、海の広さを知らず。」中国の故事から来た有名な言葉で、自分の狭い知識や考えにとらわれて、他の広い世界があることを知らないで自信満々としている様子を見えます。田舎に住む人間が少し成功するとこの言葉で諷められたりします。しかし、その続きを考えれば少し考えも変わります。その続きとは「……されど天の深さ(青さ)を知る」です。【狭い世界で一つのことを突き詰めたからこそ、その世界の深いところまで知ることができた】と解釈するそうです。若者の五島離れが進む中、五島の良さを知り、その良さを追求し、五島に生きる道も素晴らしい。子ども達にふるさと教育が浸透してほしいと願うばかりです。